

管内社協にレジ袋売上金を寄付

推進課 森屋雄太郎

3月25日、本店で各経済センターと直売所で販売するプラスチック製レジ袋の売上金を、あきる野市社会福祉協議会の網代和夫会長に寄付しました。管内の日の出町社会福祉協議会、檜原村社会福祉協議会にはJAが出向きそれぞれ渡しました。2025年4月から2026年2月までの販売枚数3万8102枚、約18万円を寄付しました。

谷澤俊明組合長は「レジ袋の売上金は、地域の社会福祉活動に役立ててもらっています。これからも、生産から販売まで循環型社会やSDGsを意識した取り組みを進めていきたい」と話しました。



寄付金を手渡す谷澤組合長(左)

支店花壇へ竹チップ敷く

日の出支店

山崎翔太

日の出町農業担い手の会は4月3日と5月14日の2回、日の出支店の花壇の一部に試験的に竹チップを敷きました。竹チップは放置竹林の環境整備の一環で伐採した古竹の有効活用を目的にチップ化された物です。被覆材として使用することで防草効果が期待され、自然に分解されるため環境にやさしく土壌改良にも繋がります。

同会の門馬睦会長は「獣害被害対策としても放置竹林の管理は重要で、その中で出た竹チップの有効活用を考え、花壇への試用を行いました。今後は防草や土壌改良の効果を検証していきます」と話しました。



竹チップを入れた花壇と会員ら

パンチ

新採用職員が農業体験

総務企画課 外尾奏葉

4月3、4日の2日間、日の出町の馬場敏明さんの圃場で2025年度中途採用職員2人と2026年度新採用職員3人を対象に農業体験研修を実施しました。

職員は馬場さんの長男の貴之さんと共に、ハウスでナス、キュウリ等の苗ポットの間隔を広げるスピーシング、ニンジンやキャベツの収穫をしました。

新採用職員の関口詩七さんは、「普段口に入っている食べ物を育てる場に関わり、そのありがたさや大変さを学ぶことができました。JA職員としても消費者としても感謝の気持ちを持ち続けたいです」と話しました。



職員5人と馬場さん(写真右)

シバザクラ満開・彩りに魅了

多西支店

山口大希

4月15日、多西支店のシバザクラが咲き始めました。花壇は通りに面しており白やピンク、薄紫色などの彩りに魅了され、立ち止まる人も多くいます。シバザクラは同支店が来店客や地域住民に喜んでもらうため、9年前に植栽して以降、職員が水やりなどの管理をしています。丹精込めて育てた甲斐があり、毎年きれいに咲いており、色鮮やかに支店を彩っています。

遠藤弘之支店長は「とてもきれいな花が咲き、足を止めて観賞するお客様も多くうれしく思います。来年も喜んでもらえるよう精一杯手入れをしていきたいです」と話しました。



咲き始めたシバザクラ

パンチ